



一盃^{わん}のお茶から世界中へ広げる 日本の美しく優しい心と平和への想い

「一盃^{わん}からピースフルネスを」の理念を提唱し、世界62カ国を歴訪しながら茶道文化の発展と世界平和に向けて活動を続けられる千玄室先生。今回の記念講演会ではご自身の経験や茶の心、世界平和への思いについてお話いただきました。

茶道裏千家前家元
文学博士
日本・国連親善大使

千玄室氏

講演会は10月7日にランドルフ記念講堂で開催。講師には茶道裏千家前家元15代であり、現在は茶道文化の発展と世界平和に向けて国内外で幅広く活躍されている千玄室氏をお招きし、「日本の心、茶のこころ」と題してお話をいただきました。

裏千家14代家元の長男として幼い頃から厳しく育てられた千先生は、京都師範学校附属小学校時代にご両親から「同志社中学へ行くように」と勧められました。「千利休と同じく禅宗の教えのもとで育った私は、なぜキリスト教主義教育の同志社中学へ行かなければならないのかと反発しました」と千先生。しかし「将来茶の道へ進むなら、より幅広い見識を身につけたほうがいい」というご両親の思いを知り、5年間キリスト教主義教育の中で学ばれ「その経験が今、大変役に立っている。どの宗教の教えも理解し、ひとつの世界観として受け止めることができます」と言われました。



第二次世界大戦中は、自ら特攻隊に志願されたというエピソードも。

「徳島の海軍航空隊では俳優の西村晃さんと同じ隊に所属していたこともあります。我々の隊が鹿児島へ移動する時に、

父から茶箱を持って行くようにといわれ、現地で特攻隊の仲間たちにお茶を振る舞ったこともあります。その中のひとりに『生きて帰ってきたらまた茶を飲ませてくれよ』と言われ、死にゆくことの現実を痛感しました」とい



壇上から下りて質疑応答される千先生

うつらい体験も話され、「戦後64年、今のこの平和を誰が築いたのか、また日本の未来を築くには何が必要かをみんなが考えなくてはいけない時がきた」と強調されました。

「世界中にすばらしい茶道の文化を広めたい」と1951年に渡米されて以来、現在までに世界各国を300回以上歴訪し、茶道文化を通して平和活動を行われている千先生。「人は常に反省し、素直な気持ちであることが大切。今日も生かさせていただいてありがとうございますという心、また苦しんでいる人々に祈りを捧げ、人の支えになってあげる気持ちを忘れてはいけません。それはまさに相手のために心を込めてお茶を入れることと同じことです」と話されました。また千利休の「南方録」の冒頭にある「家は漏らぬほど、食事は飢えぬほどにて足る事なり」という教えに触れ、「こうした日本の美しく優しい心を世界に広める時はまさに今。世界平和のために手を差し伸べてほしい」とすばらしい言葉で締めくくられ、会場は大きな拍手に包まれました。